

平成30年度上半期の総合防災訓練の実施結果について

1 春の避難所総合訓練

(1) 実施日時等

ア 日時 平成30年5月27日(日) 午前8時30分から正午まで

イ 場所 文林中学校

ウ 参加者

No.	所属	人数
1	区民防災組織(文林中学校避難所運営協議会役員)	45
2	区民(体験型訓練参加)	104
3	学校教職員・PTA役員	9
4	防災関係機関等 医師会・歯科医師会・薬剤師会・消防署・消防団・手話会・ アマチュア無線・日本郵便	53
5	区職員	28
合計		239

(2) 訓練テーマ 「初動対応と情報管理」

(3) 訓練内容

ア 「避難所開設キット」を活用した初動対応訓練

前半は、「避難所開設キット」(発災から概ね3時間程度に行う避難所開設の行動手順書等を収納したもの)を用いて、災害時に効果的に活用するために優先度の高い作業を確認しながら訓練を実施した。

イ 避難所運営訓練

後半は、役割担当ごとの「避難所開設キット」を活用訓練及び体験型訓練を実施した。

No.	役割	訓練内容
1	本部室	避難所本部開設、施設内の利用計画策定、避難所運営ルール策定及び周知、情報集約・管理
2	総務情報班	避難者受付、情報の集約・連絡・掲示、災害特設公衆電話設置、避難者名簿の作成
3	避難者援護班	居住スペース設営、施設内の定期的な安全点検、プライベートテントの設営、要配慮者用スペースの設営
4	救護衛生班	救護所の設営、避難所内の衛生管理、医師によるトリアージの補助、応急手当、災害用トイレ設営及び周知
5	給食物資班	照明機材の確認、受水槽及び応急給水栓からの給水、炊き出し

ウ 体験型訓練

消火訓練、起震車・煙ハウス体験、防災体験ツアー、応急救護訓練

エ 展示ブース

本郷消防署・消防団、駒込警察署、日本郵便(株)、文京区アマチュア無線局非常通信連絡会、区(防災課・地域整備課)

(4) 実施結果

訓練に先立ち、避難所運営協議会員を対象にワークショップを開催したことから、ほぼ、行動手順書どおりに避難所を開設することができ、実災害時でも有効に活用が図れることを確認できた。

また、テーマの「初動対応と情報管理」では、避難所運営協議会員のリーダーや各班長を中心として「避難所開設キット」を活用することで、連携が図られ、無駄のない初動対応を実施することができた。さらに、情報管理においては、文京区アマチュア無線災害非常通信連絡会指導のもと、受付等で収集した情報をタイムリーに発信し、避難所運営協議会員で共有を図り、適切な情報管理に努めることを習得した。

2 夏の避難所総合訓練

(1) 実施日時等

ア 日時 平成30年7月22日（日） 午前8時30分から正午まで

イ 場所 明化小学校

ウ 参加者

No.	所属	人数
1	区民防災組織（明化小学校避難所運営協議会役員）	32
2	区民（体験型訓練参加）	89
3	学校教職員・PTA役員	8
4	防災関係機関等 医師会・歯科医師会・薬剤師会・消防署・消防団・警察署・ 手話会・アマチュア無線・日本郵便	37
5	区職員	18
合計		184

(2) 訓練テーマ 「健康管理と衛生管理」

(3) 訓練内容

ア 「避難所開設キット」を活用した初動対応訓練

前半は、避難所運営協議会員の一人である防災士を中心として、避難所正門に集合後、鍵を開放し入室するところから訓練を開始するなど、実災害を想定した実戦的な訓練を実施した。

イ 避難所運営訓練

後半は、役割担当ごとの「避難所開設キット」を活用訓練及び体験型訓練を実施した。

No.	役割	訓練内容
1	本部室	避難所本部開設、施設内の利用計画策定、避難所運営ルール策定及び周知、情報の集約・管理
2	総務情報班	避難者受付、情報の集約・連絡・掲示、災害特設公衆電話設置、避難者名簿の作成
3	避難者援護班	居住スペース設営、施設内の定期的な安全点検、プライベートテントの設営、要配慮者用スペースの設営、暑さ対策コーナー、妊婦体験コーナー
4	救護衛生班	救護所の設営、避難所内の衛生管理、医師によるトリアージの

		補助、応急手当、災害用トイレ設営及び周知
5	給食物資班	照明機材の確認、受水槽及び応急給水栓からの給水、炊き出し物資輸送訓練

ウ 体験型訓練

消火訓練、煙ハウス体験、防災体験ツアー、応急救護訓練

エ 展示ブース

小石川消防署・消防団、富坂警察署、日本郵便(株)、文京区アマチュア無線局災害非常通信連絡会、大塚製菓(株)、区(防災課、地域整備課)

(4) 実施結果

テーマの「健康管理と衛生管理」では、冊子「東京防災」を参考にした経口補水液の作り方や大塚製菓(株)による「避難所における熱中症対策」についてミニ講義を行うことで、参加者に対し暑さ対策における自助の必要性を周知した。また、衛生管理対策については、災害用トイレでの衛生管理方法を説明するパネル展示等により参加者に対し周知した。さらに、東京都トラック協会文京支部の協力により、給食物資班を中心として避難所内での輸送物資の受入れ及び物品管理などの災害時を想定した実戦的な訓練を実施した。

なお、当日は酷暑であったが、速乾性濡れタオル及び飲料水を配布するなど万全な配慮を行った結果、体調不良者等は発生しなかった。

3 防災フェスタ

(1) 実施日時等

ア 日 時 平成30年8月26日(日) 午前10時から午後1時まで

イ 場 所 教育の森公園及び文京スポーツセンター

ウ 参加者(合計)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,513人
 ① 区民・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,218人
 ② 防災関係機関等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251人
 ③ 区職員(災害対策本部員含む)・・・・・・・・・・・・・・・・ 44人

(2) 実施内容

ア 一斉防災(危険回避)訓練(午前10時から3分間実施)

- ① 区民及び訓練参加者に対して、防災行政無線・戸別受信機・「文の京」安心、防災メール・区報・HP・SNS等により一斉放送の事前周知を図った。
- ② 区民及び訓練参加者は、午前10時の防災行政無線・戸別受信機による一斉放送を合図に、一斉防災(危険回避)訓練を実施した。

イ 観覧型訓練(午前10時から11時まで)

防災関係機関(消防・消防団・消防少年団、警察、災害時専門ボランティア、自主防災組織)が、救助活動の演技を実施した。

(①初期消火訓練、②倒壊家屋からの救出・救助訓練、③高所からの救助訓練、④警備犬による服従訓練、⑤一斉放水)

※観覧型訓練終了後、岩崎弘記念文京ジュニア吹奏楽団による演奏が行われた。

ウ 体験型訓練

身近な体験を通じて防災意識の啓発と防災行動力の向上を図った。

(炊き出し訓練、給水訓練、はしご車試乗、消火訓練、応急普及啓発広報車、起震車体験・煙ハウス体験、特殊車両展示、り災証明発行訓練、バッテリーカー試乗、ミニ制服試着、警察・消防・自衛隊各バイク試乗、防災カルタ、ペーパークラフト)

エ 防災教室

身近なスポーツをしながら防災知識を学べる「防災サッカー」や娯楽から学べる「防災落語」など子どもから大人まで楽しみながら参加できる防災教室を開催した。

オ パネル展示

災害時に相互協力の協定を締結している都市、協定事業所・大学及び区内事業所等における防災活動状況について、パネル展示や説明員等による防災普及活動を実施した。

(3) 実施結果

観覧型訓練では、消防、警察、自衛隊による迅速・確実な消火、救出活動や自主防災組織が行う救出、救護訓練を実施することで、区民に対し震災に対する備えについて強く啓発することができた。

体験型訓練では、体験コーナーを多く設けたことで参加者に対し「見て・聞いて・体験して・備える」経験をすることで、防災意識の向上を図ることができた。関係機関等の展示ブースでは、工夫をこらした展示や実演により、さまざまな角度から防災への取組みを理解し考えてもらう機会を設けることができた。

会場内は家族連れが多く、参加者へのアンケートでは、「子どもと楽しみながら防災について学べた」、「防災について考える良い機会となり、防災に対して備えていきたい」などの感想が多く寄せられた。

なお、当日は、酷暑であったが、速乾性濡れタオル及び飲料水を配布するとともに、スポーツセンターに救護所を設けるなど万全な配慮を行った結果、体調不良者等は発生しなかった。